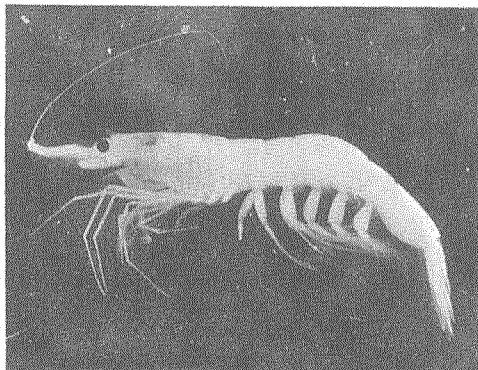


## 2. 漁場環境汚染

### 1) 読谷村長浜の赤えび

昭和49年1月31日、読谷村字長浜海岸で大量の赤い小エビが海面にピョンピョン跳ねていて、附近の人々は総出でそのエビを獲っていると言う。中部保健所の食品監視員は河川からの毒物混入によって、浅い所に棲む普通のエビに異常が起ったことも疑われるとして、そのエビを食用に供しないよう指導しているとの主旨の新聞報道があった。

数日後、当水試に持ち込まれた件のえびは下図のえびであった。これは明らかに浅所に棲むフトミゾエビではないし、発光器があるので深海性のえびである。腹面、胸脚等に多数の発光器を持ち、第2触角鱗片に各4ヶの発光器があるので目下のところさくらえび科のももえび *Sergestes nipponensis* Nakazawa にもっとも近い種類であると考えられる。



結局本例の場合は、深海性のえびが夜間表層に浮上し、北風やその他の原因によって浅所に寄せられ、朝になっても深所移行できなくなったための異常行動とみられる。これまでの事例については、目下照会中である。

参考文献 新日本動物図鑑(中) 北隆館 昭和40年